Volume 148（2019年10月）

JRRN Newsletter

日本河川・流域再生ネットワーク http://www.a-rr.net/jp/ https://www.facebook.com/JapanRRN

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。(Since 2006)

目 次 Pages

- JRRN 事務局からのお知らせ…… 1
- JRRN 会員寄稿記事…… 3
- JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ……6
- 会議・イベント案内 ＆ 冊子等の紹介……7

JRRN 事務局からのお知らせ（1） *JRRN Activity Report*

小さな自然再生普及プロジェクト－「小さな自然再生事例集 II(仮称)」取組事例応募の御礼

前号にて告知を行いました「小さな自然再生事例集 II(仮称)」の取組事例募集について、おかげさまで全国から多数のご応募を頂き、無事に募集を締切ることができました。応募者の皆様にはこの場を借りて御礼申し上げます。

さて、事例集 II では、小さな自然再生に実践的に関わってこられた全国の皆様から、活動を通じて分かった、施工上の工夫や効果、失敗談などの情報を紙面にてご報告頂く予定です。

今後のスケジュール（予定）

10 月中旬：
執筆協力者より原稿（一次案）を提出頂きます。

10 月中旬～11 月上旬：
事務局と執筆者で原稿を仕上げます。

11 月～12 月：
原稿を校正・編集します。

1 月：
執筆者に校正原稿を確認頂きます。
（→印刷用原稿完成）

2 月:
「事例集 II」印刷製本～発行～公開を予定。

なお、今号では、事例集 II の中間報告として現在予定している構成（案）を紹介させて頂きます（右欄）。皆様よりお寄せ頂いた事例は第 3 章の『全国の事例の報告』にて掲載の予定です。また、この章では全国マップや、具体の設計事例紹介のコラム等も掲載する予定です。

執筆協力者（応募者）の皆様には引き続きご協力の程、よろしくお願いいたします。

《事例集 II 制作作業の中間報告》

◆小さな自然再生事例集 II（仮称）編集体制◆

〇編集・制作： 「小さな自然再生」研究会
〇各事例執筆： 全国の小さな自然再生の担い手
〇発行／制作事務局： 日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）

◆小さな自然再生事例集 II（仮称）の構成（現在案）◆

はじめに（土屋JRRN代表理事）
1．水辺の小さな自然再生とは
　小さな自然再生の役割（技術～科学～社会）
　小さな自然再生の地域づくりや教育的な価値
　小さな自然再生の工法
2．水辺の小さな自然再生を行うための留意点
　留意点と安全管理
3．事例紹介
　事例地図（全体マップ）
　全国の事例の報告（応募頂いた約15事例を予定）
　コラム（設計のヒントを紹介）
4．巻末資料
　巻末 1．編集協力者紹介
　巻末 2．データベース紹介
　巻末 3．研究会紹介＆会員募集
あとがき

河川基金 公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

（JRRN 事務局・澤田みつ子）

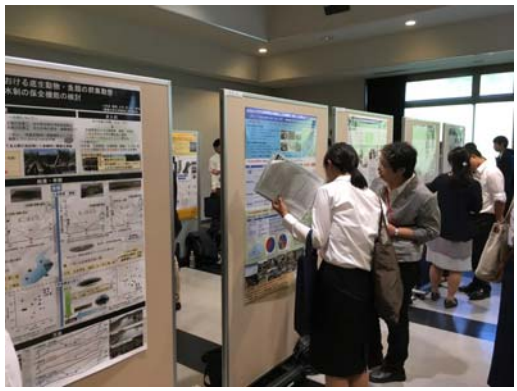
JRRN 事務局からのお知らせ（2）　*JRRN Activity Report*

小さな自然再生普及プロジェクト－「応用生態工学会第２３回広島大会」発表報告

2019 年 9 月 27 日（金）～30 日（月）に「応用生態工学会　第 23 回大会（広島大会）」が開催され、「水辺の小さな自然再生の普及による地域に根差した多様な川づくりの推進」と題したポスター発表を行いました。本発表は、小さな自然再生の全国への普及と技術向上を目的に、JRRN が幹事を務める「小さな自然再生」研究会と共に取り組んできたこれまでの活動成果を紹介したものです。

ポスター発表を通じては、小さな自然再生の取組に際しての市民や行政との連携の仕方、子どもたちの安全対策、活動財源や工法の選択理由、また取組の効果などに関わる質問を頂戴しました。更に、全国の事例紹介に関して、成功事例のみならず失敗情報を共有できる仕組みへの期待もご意見として頂きました。

水辺でできる小さな自然再生の更なる推進に向けた貴重な意見交換の機会となり、本発表を通じて頂戴した助言は今後の普及活動に反映してまいります。



ポスター発表の様子

（JRRN 事務局・和田彰）

※発表要旨とポスターはこちらから(PDF 1MB)：http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/files/2019/09/n09_0057.pdf

あの日のあの川 リレー日記　～第 46 話～

あの日のあの川 リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです．リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます．

第 46 話主人公　松本　大輝

（筑波大学 社会･国際学群 国際総合学類 白川（直）研究室『川と人』ゼミ）

（■川系男子）

（出身地を流れる川：千葉県 新川）

「人と川の関係性」

いつのこと？：　3 歳～今にかけて

どこの川？：　新川（印旛疏水路）

こんにちは、松本大輝です。今回は、私の地元（千葉県八千代市）を流れる「新川（印旛疏水路）」について書いてみようと思います。「人と川の関係性」と題したということで、松本と新川の関係性を振り返ったうえで、個人的に感じることをつらつらと書いてみようと思います。しばしの間お付き合いください。

西印旛沼から大和田排水機場を経由して東京湾へ至る印旛放水路のうち、西印旛沼から大和田排水機場までの部分を新川（印旛疏水路）、大和田排水機場から東京湾までを花見川と呼んでいます。新川は、“暴れ沼”として名高かった印旛沼の水を、東京湾へ流すべく計画された人工河川です。今の新川の姿になるまでには、壮絶な開削工事の歴史があったようです。

享保 9（1724）年、平戸村（現在の八千代市）の染谷源右衛門という名主が、幕府の許しを得て、自己資産を投げうって掘割工事に着手したことに始まり、天明 2（1782）年、天保 14（1843）年と、江戸時代に計 3 度も開削工事が試みられましたが、いずれも難工事や洪水の頻発により頓挫しました。昭和に入ってもなお、開削工事は計画止まりでした。昭和 11(1935)年、昭和 13(1938)年、昭和 16(1941)年にそれぞれ洪水が発生したことから、「3 年に一度コメを収穫できればよい」だなんていわれる時期もありました。結局今の新川の姿になったのは、昭和 44（1969）年、染谷源右衛門が工事を始めてから約 250 年後のことでした。

そんな新川は、八千代市を縦断するように流れています。私は 3 歳のころから八千代市に住んでいますが、子供のころの新川への思い入れというのは、さしてありませんでした。小学校の地域学習にて、前述の歴史を教わったくらい。たま～に気が向いて、川沿いに整備されたサイクリングロードを漕いだくらい。車で橋を渡ってる時に、バス釣りしてるおっちゃん達を眺めていたくらい。

「新川こそ、わが青春！」のような感情は、一切ありません。むしろ、「なんでうちの近くの川は、コンクリートで固められて、水も汚くて、バス釣りくらいしかやることがない川なんだ！！」という文句すら垂れていました。

「新川は、ただの川」というのが、少年マツモトが持つ、新川の印象でした。

時は立ち、松本は筑波大学の学生になりました。巡り巡って、白川先生のゼミに入ることになりました。川について、学術レベルで学ぶことになりました。専門としてる防災をはじめ、かわまちづくりやら、環境流量やら、生態系やら…。川一つを取り上げても、様々な側面から議論が生まれるという点に、惹かれました。「川って、複雑系だな～」って、今の青年松本は感じているんです。

そんな感じに成長した青年松本は、改めて新川を眺めてみました。

「そういえば新川って、治水の歴史あったよな？調べてみよ。」
「うわあ、染谷源右衛門って、やべえ人だな」
「えっ、新川が今の姿になったのって、うちの両親が生まれるくらいの時！？」
「へえ、同時に干拓開田も進んだんか…」
「あれ、新川の水って全部東京湾に注いでんのかと思ったら、普段は印旛沼の方に流れてんのか！」
「そういえば、印旛沼は水質問題とか生態系問題もあったな…新川にも影響ありそう…」
「え！新川もかわまちづくり計画事業の対象になってんの！？知らんかった！！」
「ああ…自然の猛威をかわそうと奮闘した人がいたから、今の安全な八千代市があるんだなあ…」
「今おれが防災研究してるのって、そんな人たちの意思を無意識的に引き継いじゃってんのかもなあ…」

自分が持ち合わせていなかった視点をちょこっと身につけると、川って一気に“深い”ものだと感じるようになります。子どもながらに「新川は、ただの川」と感じていたものが、ほんの少しの学びと視点が加わっただけで、「新川は、“深い川”」だと感じるようになりました。さらには、「おい、新川って今のおれを作りあげてきたんじゃないか？」という、和辻哲郎氏の“風土論”的なものを感じるまでになってしまっているのが、末恐ろしいです。

…という感じで、松本と新川の関係性について振り返ってみました。

私やこの文章を読んでくれている方々のように、川について詳しく知ろうとすること、自分と川をここまで結び付けて考えるようなこと、普通はありません。普通の人たちは、川なんかに目もくれずに人生を歩み、川と自分の関係なんか知ることもなく死んでいく。それが普通なんです。

そんな中でも、川と見つめ合う一人として想うこと、それは、なんだかんだいって結局、川はその流域の人たちに影響を与え続けているんだ、ということです。

「多くの人には気づかれない。だが確かに、多くの人の“自己”に入り込み、生き続ける。」
これぞ、川の哲学！！…なんつって。

くだらないことばっか思いついちゃうので、そろそろ終わります。

最後に一つ。
「川の研究しています！」
初対面の人でも大抵この一言で、「川っ！？どんな研究！？」って感じに食いついてくれます。
これもある意味、みんなの“自己”の中で川が生き続けてる、ってことですよね？

（次号は 12 月号にて丸山陽久さんにバトンを託します）

JRRN 会員寄稿（2）　*JRRN Member Contribution*

水辺からのメッセージ *No.125*

岡村幸二（JRRN 会員）

歴史を伝える樋門：

江戸時代に湧水から水を集め 坂川は永く地域を潤してきた

撮影：2019 年 9 月（千葉県松戸市・坂川）

◆100 年の歴史を伝える生き証人

県内に現存する煉瓦造水門の中で最も古く歴史的価値が高く、建設から 100 年以上その姿を現在に残しています。現在は水門としては使用されていませんが、その存在は我々に多くを語りかけます。

◆先人の血と汗によって切り開かれた川

江戸時代に開削された人工河川ですが、「四十八渓の澗水をあつむ」と言われました。幾度かの改修により現在の姿となりました。現在、坂川沿いには宝光院、松先稲荷神社、松戸神社、慈眼寺、円慶寺など、歴史を感じる社寺が多く並んでいます。（松戸中央ロータリークラブの説明板より）

連載『水辺からのメッセージ』のバックナンバーは JRRN ホームページ内の以下のページよりご覧いただけます！
http://jp.a-rr.net/jp/news/member/category/mizube

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ（2019 年 9 月末まで提供分） *Information from member*

【JRRN 会員からの提供情報】

歴史・文化探訪セミナー「甲州流川除」（10/13 開催）

株式会社コミュニティ・ディベロップメント・パートナーズ（CDP）様より御提供頂いたイベント情報です。

■日時：2019 年 10 月 13 日（日） 10:00～12:00

■場所：山梨県森林公園金川の森

■参加費：無料

◆詳細は以下参照

http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3537.html

【JRRN 会員からの提供情報】

第 17 回 川の自然再生セミナー（10/29 開催）

公益財団法人リバーフロント研究所より、本年の「川の自然再生セミナー：河川ＣＩＭを活かした多自然川づくり」のご案内です。

■日時：2019 年 10 月 29 日(火) 13:00～17:20

■場所：月島社会教育会館 4 階ホール （中央区月島 4-1-1）

■主催：(公益)ﾘﾊﾞｰﾌﾛﾝﾄ研究所

■参加費：無料

◆詳細は以下参照

http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3501.html

【JRRN 会員からの提供情報】

はたのおと 2019in 黒潮町（11/2-3 開催）

高知県西南部の「はた地域」の探求と発信に取り組む「研究会はたのおと」より、本年の研究発表会の案内が届きました。

■日時：2019 年 11 月 3 日 (日) 9:00-15:00

■場所：大方あかつき館（高知県黒潮町入野 6931-3）

■主催：研究会はたのおと

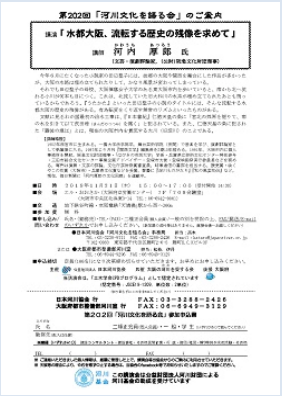
■参加費：無料

◆詳細は以下参照

http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3530.html

【JRRN 会員からの提供情報】

第 202 回 河川文化を語る会『水都大阪、流転する歴史の残像を求めて』（11/21 開催）



公益社団法人日本河川協会様より御提供頂いたイベント情報です。

■日時：2019 年 11 月 21 日（木） 15:00～17:00

■場所：エル・おおさか（大阪府立労働センター）

■講師：河内 厚郎（文芸・演劇評論家，(公財)阪急文化財団理事）

■参加費：無料

◆詳細は以下参照

http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3533.html

【JRRN 会員からの提供情報】

淀川舟運歴史文化発見クルーズツアー（11/23-24 開催）

大阪で開催される「淀川舟運歴史文化発見クルーズツアー」のイベント情報が届きました。

■開催日：2019 年 11 月 23 日 (土・祝)・24 日(日)

■【A コース】
枚方-八幡歴史文化発見ツアー

■【B コース】
背割堤-伏見歴史文化発見ツアー

■参加費：大人 3,000 円
小人 1,500 円

◆詳細は以下参照

http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3540.html

【海外からの提供情報】

「RRC（英国河川再生センター）最新会報」紹介

RRC（英国河川再生センター）の最新会報（2019 年 9 月号）が事務局より届きました。

本号では、来年 4 月に開催される RRC 年次講演会の発表論文要旨の募集、また RRC 主催の 4 つの河川再生研修コースの概要と申込方法が掲載されています。

◆詳細は以下参照

http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3543.html

会議・イベント案内（2019 年 10 月以降） *Event Information*

（国内の河川・流域再生に関する主なイベント） ※前頁でご案内した行事は本欄では掲載していません。

■第 12 回いい川・いい川づくりワークショップ in 滋賀・京都
○日時：2019 年 10 月 5 日（土）、16 日（日）
○主催：いい川・いい川づくり実行委員会
○場所： ピアザ淡海・滋賀県立県民交流センター（大津市）
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2995.html

■隅田川マルシェ
○日時：2019 年 10 月 5 日（土）10:00～15:00
○主催：隅田川マルシェ実行委員会
○場所： 清洲橋の東詰、LYURO 東京清澄（東京都江東区）
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3026.html

■第 8 回 みんなで取り組む武庫川づくり交流会
○日時：2019 年 10 月 5 日（土）13:30-16:30
○主催：兵庫県 県土整備部 土木局 武庫川総合治水室
○場所： 武庫川 仁川合流点 西側河川敷（兵庫県西宮市）
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3029.html

■琵琶湖外来魚駆除大会
○日時：2019 年 10 月 6 日（日） 10:00～15:00
○主催：琵琶湖を戻す会
○場所： 下寺町津田江 1 (北)湖岸緑地 （滋賀県草津市）
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3018.html

■ミツカン水の文化フォーラム 2019
○日時：2019 年 10 月 19 日（土） 13:00～17:00
○主催：ミツカン水の文化センター
○場所： 立教大学池袋キャンパス （東京都豊島区）
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3020.html

■第 22 回河川生態学術研究発表会
○日時：2019 年 11 月 7 日（木）10：45～17:15
○主催：河川生態学術研究会
○場所： 東京大学 弥生講堂・一条ホール（東京都文京区）
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3031.html

■第 11 回応用生態工学会全国フィールドシンポジウム in 耳川
○日時：2019 年 11 月 14 日(木)～15 日(金)
○主催：応用生態工学会 普及・連携委員会
○場所： 宮崎県日向市 他
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2970.html

■市民普請シンポジウム
○日時：2019 年 11 月 24 日（日） 午後
○主催：土木学会 市民普請グループ
○場所： 土木学会（東京都新宿区四谷）
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3011.html

冊子等の紹介 *Publications*

■ 小さな自然再生サミット～できることからはじめよう～ 2019 神戸大会 開催報告 （2019.2 発行）

・発行：日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）
・発行年月：2019 年 2 月
・ページ数： 43 ページ

2019 年 1 月 26 日（土）～27 日（日）に神戸にて開催しました『小さな自然再生サミット 2019 神戸大会』の開催成果報告書です。

この開催報告は、サミット参加者とともに学び議論した内容の一部を、当日の写真とともに皆様にご紹介するものです。

■ 「できることからはじめよう 水辺の小さな自然再生事例集」（2015.3 発刊）

・監修：玉井信行 東京大学名誉教授 / JRRN 顧問
・編著： 「小さな自然再生」事例集編集委員会
・発行：日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）
・出版年月：2015 年 3 月

本事例集は、小さな自然再生の実践を通じてその技術普及に尽力されている専門家の方々、専門知識の社会への橋渡しの専門家、そして有志の若手研究者や実務者で構成される「小さな自然再生事例集編集委員会」が、小さな自然再生の全国への普及を目的として制作したものです。

上記冊子の入手方法 ※PDF 版はこちらから： http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/

JRRN 会員募集中　*JRRN membership*

■ JRRN の登録資格（団体･個人）

JRRN への登録は、団体･個人を問わず**無料**です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

(1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。

(2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。

(3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。

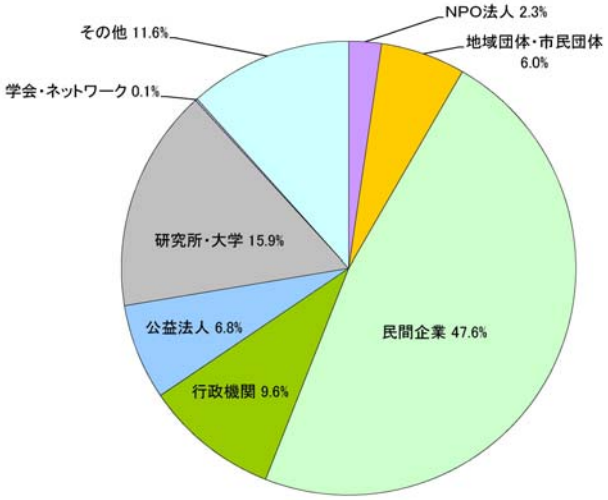
(4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。

(5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧下さい。

http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html



2019 年 9 月 30 日時点の個人会員の所属構成
（個人会員数：801 名、団体会員数：60 団体）
※9 月の新規入会数：　個人会員 1，団体会員 0

JRRN 会員特典一覧表（団体会員・個人会員）

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員（一般）
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール（週1回）の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter（毎月）及び年次報告書（年1回）等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内･優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報･技術収集や専門家･組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事･出版物･製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュール（ARRN Newsletter等）の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家･団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：　http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川･流域再生ネットワーク(JRRN)　事務局
〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号　NMF 茅場町ビル 7 階　（公財）リバーフロント研究所 内
Tel:03-6228-3865　Fax:03-3523-0640　E-mail: info@a-rr.net
URL: http://www.a-rr.net/jp/　Facebook: https://www.facebook.com/JapanRRN